Pfeiffer Report

Adobe Creative Cloud ライブラリ：制作チームの生産性を加速

この調査について

本レポートは、Pfeiffer Consultingがアドビの委託にもとづいて実施した市場別ベンチマーク評価の調査結果を報告するものです。調査の主な目的は、電子メールやサーバー、クラウドストレージなど、デザイン要素を共有する他の方法と比較して、**アセットや設定を共有するためにCreative Cloudライブラリを使用した場合の効率と生産性の向上について**検証することです。

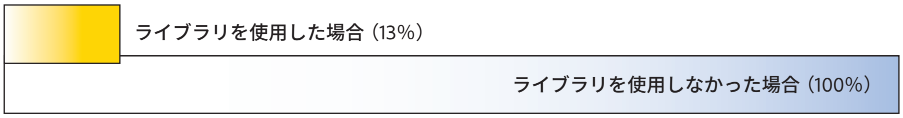
ベンチマークには、過去10年以上にわたって精度を高めてきたPfeiffer Consultingの生産性ベンチマーク調査手法を使用し、熟練した作業者が個々の作業をおこなうためにかかる時間を測定しました。詳しくは、この文書の末尾にある「調査手法」をご覧ください。

ライブラリについて

Creative Cloudライブラリは、グラフィック、画像、テキストスタイル、カラースウォッチなどのアセットの保存および取得を可能にすることにより、プロのクリエイターのワークフローを効率化するために導入されました。ライブラリはチームの他のメンバーや外部の共同作業者と共有できるため、**個々のユーザーの制作を迅速化するだけでなく、共同作業を加速**します。**ライブラリ内のアイテムが変更されると、アクセス権のあるすべてのユーザーにアイテムの変更が自動的に反映されます。**

ライブラリの使用は、生産性に非常に大きな影響を及ぼすことがあります。この調査の対象となった15個のワークフローシナリオすべてを平均すると、**ライブラリを使用して共有した場合は、使用しなかった場合よりも約8倍迅速**でした（下図を参照）。

主なベンチマークの結果：15個のワークフローシナリオの平均



ソリューションごとに、15個のワークフローシナリオを試した平均値。
合計186のベンチマーク評価を測定。
参照値：ライブラリを使用せずに作業した場合の平均時間。**短いほど良い。**

概要

- **ライブラリはCreative Cloudエコシステムの重要な拡張機能**として、アプリケーション間の連携を強化し、ワークフローの生産性を高め、アセットや設定の共有と更新を従来の方法よりも効率化する役割を果たします。
- **ライブラリが生産性に及ぼす影響は、制作チームで特に顕著です。**ライブラリを使用すると、個別のファイルで作業するよりも、共有アセットの使用と変更されたコンテンツの更新に要する時間が大幅に短縮します。
- ライブラリを使用すると、広範なクリエイティブプロジェクトで**ブランドの一貫性を確保**できます。
- この調査でおこなったベンチマーク評価では、**ライブラリの使用に伴って大幅に生産性が向上する可能性があることが示されています**（下図を参照）。

Creative Cloud ライブラリ：生産性向上をもたらす主な要因

ライブラリの仕組み

根本的に、**ライブラリは頻繁に使用するアイテムや設定を保存および利用するのに便利な機能です。**ひとつのアプリ内でも便利に使えますが、例えば、Illustrator のグラフィックを Photoshop や XD のユーザーに使用させるため、あるいは、異なるアプリ間で文字スタイルや段落スタイルを転送するためなど、複数の Creative Cloud アプリ間の作業でより効果を発揮します。**これにより、Creative Cloud エコシステムの連携性が大きく向上し、**Illustrator と After Effects、InDesign と Dimension のように異なるアプリ同士を組み合わせて利用できるようになります。

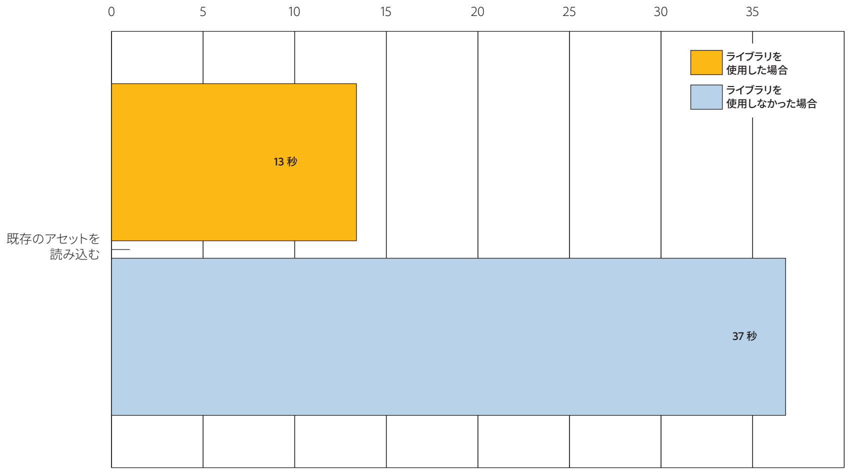
ライブラリの使用が生産性に及ぼす影響は、ごく簡単な例でも明らかです。例えば、ベクターグラフィックをライブラリから配置すると、ローカルのハードドライブ上のファイルから取り出すよりも 3 倍迅速です（下図を参照）。

ライブラリとモバイルアプリ

この数年、アドビは、Creative Cloud エコシステムをデスクトップアプリだけでなく、スマートフォンやタブレットで動作する関連アプリへと拡大してきました。これらのモバイルアプリとデスクトップアプリの連携を促進しているのがライブラリです。**代表例として Adobe Capture を取り上げます。**このアプリは、現実の世界の要素を制作用の素材として収集するためのアプリで、身の回りにある書体を認識したり、ベクターシェイプやカラーパレット、Look やパターンをキャプチャする機能があります。

アセットをローカルファイルから読み込んだ場合とライブラリを使用した場合の比較

単位は秒。データはすべて 3 つの個別ベンチマークの平均値。
短いほど良い。



主なポイント

- **ライブラリは、頻繁に使用するアセットの保存と共有に便利で効率的です。画像、グラフィック、文字の仕様、カラーパレットなどのアセットに適しています。**
- **ライブラリを使用すると、Creative Cloud アプリ間の連携が容易になるだけでなく、アプリケーション間やユーザー間で要素の変更が自動的に同期され、チーム間でアセットを共有できるようになります。**
- **Creative Cloud デスクトップアプリケーションはライブラリの整理と管理のためのハブの役割を果たします。また、クリエイティブアセットの並べ替えやグループ化、読み込みを操作できます。**

プロのクリエイターは、頻繁に使用するアセットや設定（スタイルシートなど）をハードドライブ上にある以前のプロジェクトから取り出すことがよくあります。**そうしたタスクにライブラリを使用すれば、大幅に効率化することをベンチマークは示しています。**

グループとコメント

ライブラリに数百、数千のアイテムを集めるユーザーはそう多くはありませんが、**ライブラリには大量のデータセットを扱う能力があります**（最新のカウントでは、1ライブラリあたり最大1万アイテム）。ただ、これは目的のアイテムを見つけるのが難しくなることも意味します。

この問題を解消するために、ライブラリには大量のアセットの操作を効率化するための機能がいくつか備わっています。まずはグループです。**アイテムは自動的に種類別にグループ化されますが、ユーザーがカスタムグループを作成することもできます**。例えば、特定のプロジェクトに必要な要素すべてをひとつにまとめるといったことが可能です。

同様に重要なのが、ユーザーが各アイテムに追加できるコメントです。コメントとアイテム名の両方を検索できるため、大規模なライブラリ内で目的のアイテムの特定を非常に効率的におこなえます。

実在の物のディテールをPhotoshopのブラシとして使用することはもちろん、Adobe Dimensionで3Dで視覚化する際の素材としても使えます。**キャプチャしたアイテムはすべて現在選択されているライブラリに送られ、すべての関連アプリですぐに使用できます。**

共同作業

ライブラリは、複数のアプリケーションを併用する個々のユーザーにとって便利なだけはありません。**共同作業でこそ、生産性を顕著に向上させます。**

同じプロジェクトで作業するプロのクリエイターは、通常、デザイン要素、グラフィック、および文字スタイルやカラーパレットなどの設定を共有するために、電子メールに添付するか、サーバーで共有するか、クラウドストレージを使用するかして、ファイルにアクセスできるようにします。**1回だけなら、これらの操作にはせいぜい1〜2分しかかかりませんが、共同作業でデザインを進める場合は、その頻度が高いため、合計するとかなりの時間になる**ことをベンチマークは示しています（7ページの表を参照）。

数値では示しにくいものの、ライブラリの使用には注目すべきメリットがほかにもあります。従来の方法でアセットや設定を共有するよりも、**チームメンバーが古いバージョンのアイテムをうっかり使用するリスクが大幅に減るのです。**

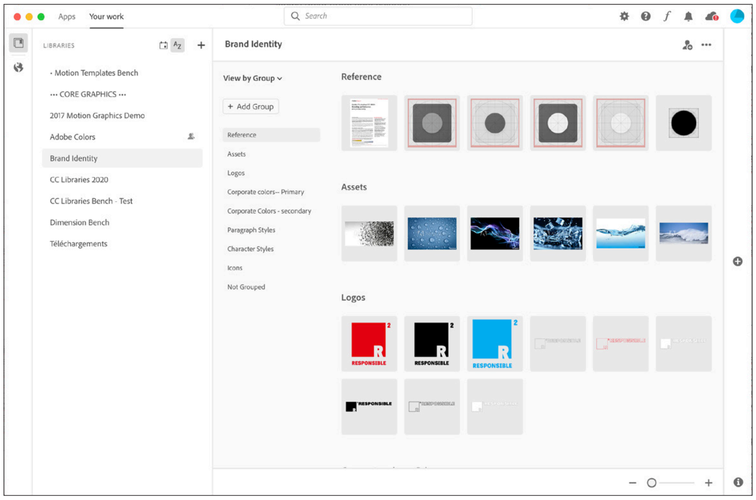
Creative Cloudデスクトップアプリケーション：ライブラリの管理など、機能多数

ライブラリには、各アプリのライブラリパネルで直接作成されたライブラリアセットを管理および整理するためのオプションが用意されています。これは便利ですが、より包括的な管理タスクを効率的に処理するには最善とは言えません。

そこで活躍するのが、Creative Cloudデスクトップアプリケーションの最新リリースです。以前のリリースは、アプリのインストールとアップデートのダウンロード、Creative Cloudアセットへのアクセスが主な用途でしたが、**最新版は、Creative Cloudユーザーが必要とする多様な用途に対応するハブとしての役割を果たすよう、機能が拡充されており**、アプリのダウンロードと更新はもちろんのこと、利用可能なアプリに関する詳細情報の確認、Creative Cloudアプリのチュートリアルへのアクセス、クリエイティブアセットの管理、そして何よりライブラリの管理ができます。

より具体的には、Creative Cloudデスクトップアプリケーションでは、**ライブラリの作成と管理、アイテムの一括追加、サイズ調整可能なプレビューでのアセットの確認、アイテムの名前変更と整理、**およびライブラリに保存されているアセットの書き出しをおこなえます。

Creative Cloudデスクトップアプリケーションを使用すると、ライブラリを効率よく管理できるため、共同作業では特に便利です。



Creative Cloud ライブラリが共同作業の迅速化に果たす役割

制作チームの共同作業

最高の環境下でも、共同作業は綿密な計画を必要とする複雑な課題です。**制作チームの場合、複雑さの度合いと問題発生の可能性が飛躍的に上がります。**プログラムやデータ形式、必要な能力が多岐にわたるためです。

実際に、各制作プロジェクトでは、大抵の場合、Photoshop、Illustrator、InDesign、XDなど、多様なプログラムが使用されます。各プログラムからの出力を効率的な方法で統合することは、制作チームのワークフロー管理において、常に重要な課題とされてきました。

これらすべてのアプリケーションのデータを統合するのはごく一般的なプロセスですが、それをできる限り円滑に実行するのは容易ではありません。**ライブラリを使用すると、どのアプリケーションでも主要なクリエイティブアセットに簡単にアクセスできるため、チームの生産性の大幅な向上につながる**ことを、この調査のベンチマークは示しています。

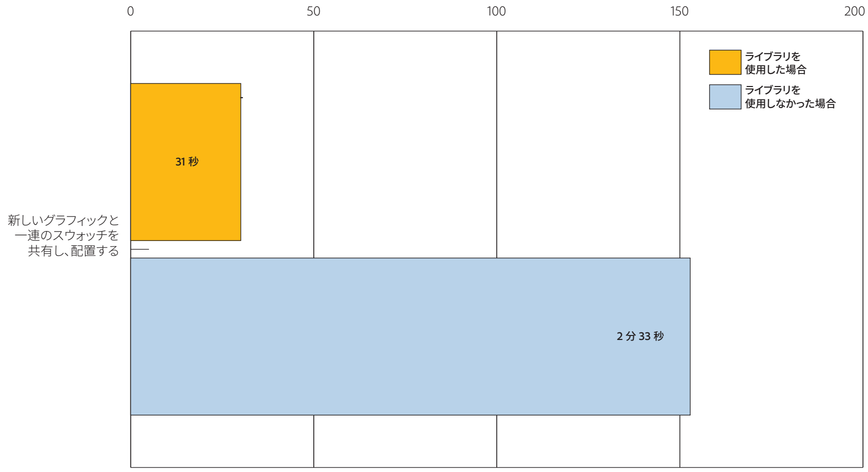
この生産性向上の背景には、1回の操作（会社のファイルサーバーの代わりにライブラリを使用して素材にアクセスする操作など）では数秒かせいぜい数分の効率化であっても、**チーム全体で合計すると数時間の節約につながる**という事実があります（5ページと7ページのグラフを参照）。

主なポイント

- ライブラリを使用してワークグループ間でアセットや設定を共有すると、他の共有方法よりもはるかに生産性が向上します。
- ライブラリは、様々なチームやプロジェクトで、**クリエイティブプロジェクトでのブランドの一貫性をより効率的に管理するのに役立ちます。**
- ライブラリとMicrosoft Officeアプリケーション（Word、PowerPointなど）の統合により、**企業は業務文書やプレゼンテーションで企業デザインの一貫性を確保できます。**

共同作業のベンチマーク：アセットの共有（電子メール／サーバーの平均）

単位は秒。データはすべて3つの個別ベンチマークの平均値。
短いほど良い。



カラースウォッチやスタイルシートなどの設定の共有は、従来の方法では、別のアプリケーションで使用できるようにデータを書き出す必要があることから、時間がかかります。このグラフのデータは、ファイルサーバーまたは電子メールを使用して設定を共有した場合のベンチマークの結果の平均を示しています。**こうした作業にライブラリを使用した場合、生産性が非常に高くなります。**

生産性だけではありません。**ライブラリの使用は、企業の制作プロジェクトに欠かせないブランドの一貫性確保にも役立ちます。**企業アセットをはじめ、書体やカラーパレットなどのコーポレートアイデンティティの中心的要素には、最新の適切なバージョンを一貫して広く使用することが不可欠です。

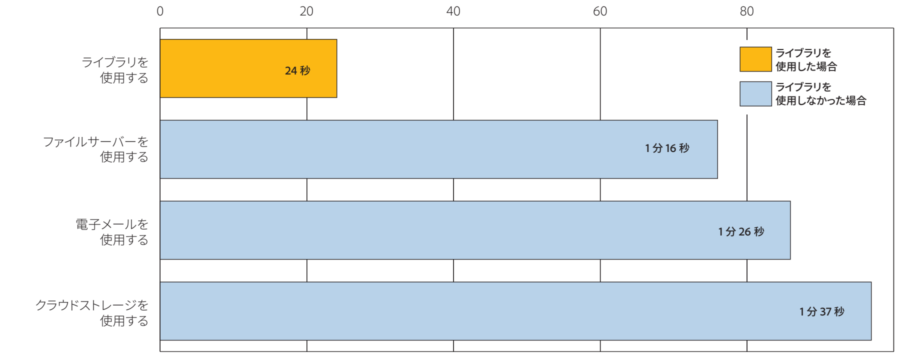
ただ、使用するアプリケーションの複雑性と多様性を考えると、これは容易なことではありません。社内の制作チームに加え、アセットが保存されているサーバーにアクセスできない社外関係者がプロジェクトに携わることが多いため、なおさらです。**一方、ライブラリを使用すると、アクセス権のあるすべての関係者が常に最新バージョンのアセットや設定を入手できる**上に、それらは修正が加えられると自動的に更新されます。

オフィス環境との統合：現在のところ Creative Cloud アプリに限られていますが、今後リリースされる**ライブラリは、企業コミュニケーションの主要アプリケーションである Microsoft Word および PowerPoint と統合**される予定です。これにより、オフィスユーザーは企業アセットに簡単にアクセスでき、正しいバージョンが確実に使用されるようになり、事実上**ブランドの一貫性がクリエイティブアプリケーション以外にも拡大されます。**

ライブラリを使用した共同作業のベンチマーク：主な結果

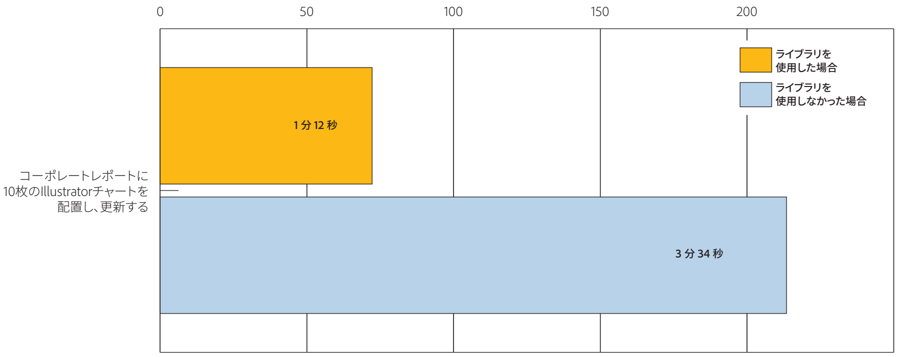
ライブラリでのアセットの共有：
制作チームは、アセットや設定の共有に、通常はファイルサーバー、電子メール、またはクラウドストレージをソリューションとして使用しますが、これらの方法よりもライブラリを使用する方がはるかに効率的です。
単一のアイテムを共同作業者と共有する場合、今回のベンチマークの平均では、**ライブラリを使用すると 30 秒かからないのに対し、他の方法ではその3〜4倍の時間を要しました。**

ひとつのアセットを共同作業者と共有するのに要する時間（最もうまくいった場合）
単位は秒。データはすべて 3 つの個別ベンチマークの平均値。
短いほど良い。



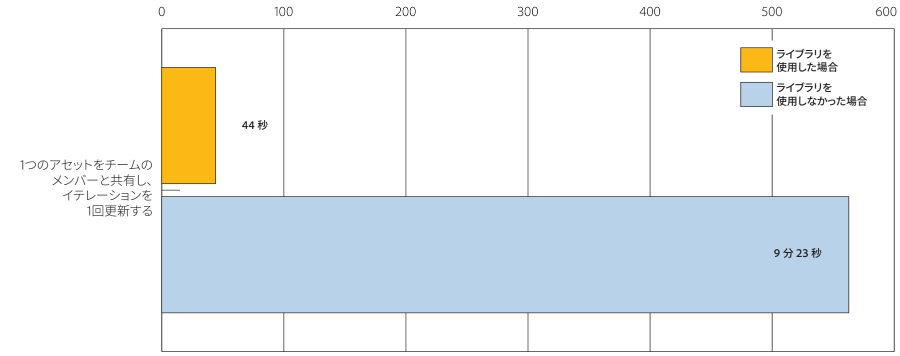
デザインの共同作業：今回のベンチマークでは、企業報告書の InDesign レイアウトに 10 個のグラフを配置し、1 回やり直して更新する作業にデザイナーが費やす時間を測定しました。**ライブラリを使用すると、更新前後のグラフを電子メールで共有するよりも 3 倍迅速にタスクが完了する可能性があります。**

共同作業のベンチマーク：Illustrator と InDesign
単位は秒。データはすべて 3 つの個別ベンチマークの平均値。
短いほど良い。



共同作業のベンチマーク：このベンチマークでは、5 人のクリエイターから成るチームがクラウドストレージを使用してアセットを配置し、修正後に更新するのに費やした合計時間を分析しました。**ライブラリを使用すると、これらの作業に要する時間は大幅に短くなります。**ライブラリから取得したアセットは修正されるたびに自動的に更新されることも、その要因です。

共同作業のベンチマーク：5 人のチーム（クラウドストレージを使用）
単位は秒。データはすべて 3 つの個別ベンチマークの平均値。
短いほど良い。



Creative Cloud ライブラリの使用に適した共同作業シナリオ

多種多様なワークフローの連携

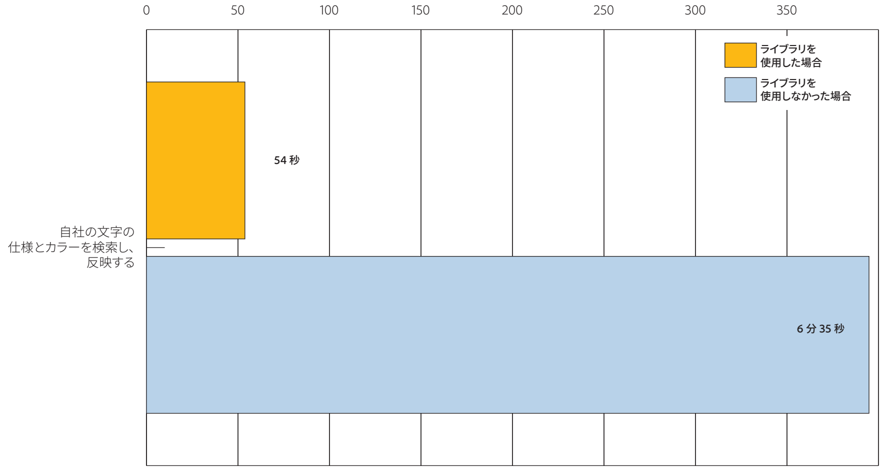
この数年で、クリエイティブプロジェクトの要件は急激に高まりました。少し前までは、制作ワークフローといえばせいぜい印刷ベースのデザインと web ページぐらいのものでしたが、今では、プロのクリエイターは数えきれないほど様々な出力チャネルや画像形式、プラットフォームと対峙しています。

これは、Illustrator で作成したグラフィックや Photoshop で作成したコンポジションなどのアセットをソーシャルメディアチャネル、モバイルデバイス、および増え続けるモバイルアプリに合わせて作り変える必要が生じることも意味します。さらに、そうしたデザインに含まれる個々の要素の数が信じられないほど多くなる可能性があることから、**この統合の最適化にライブラリを様々に活用できる**ことは間違いありません。そうしたシナリオには、社内スタイルガイドの作成（次のページのサイドバーを参照）や、ユーザーエクスペリエンス（UX）デザインがあります。

ライブラリと Adobe XD

わずか数年で、UX デザインとインタラクティブエクスペリエンスの作成は、クリエイティブ業界で最も動きの活発な分野になりました。一般に要素の数が限られているグラフィックデザインと違い、UX デザインは中核となるデザインコンセプトのバリエーションがベースとなります。多数のスクリーンレイアウトに中核となるデザインコンセプトを繰り返し適用して、スタイルやグラフィック要素の一貫性を維持する必要があります。

スタイルガイドのベンチマーク：文字の仕様とカラー値の取得および使用
単位は秒。データはすべて 3 つの個別ベンチマークの平均値。
短いほど良い。



主なポイント

- **ライブラリは、多様なワークフローシナリオの効率化に役立ちます。**アセット、設定、文字の仕様などを簡単に共有できるためです。
- ライブラリと Adobe XD を組み合わせると、Photoshop や Illustrator などの**主要なクリエイティブアプリケーションと、UX デザイン環境との連携性が大きく改善します。**
- ライブラリを使用して社内スタイルガイドを実装すると、幅広いクリエイティブアプリケーションを利用しながら、**デザイン仕様の使用を簡素化し、ブランドの一貫性を高めることができます。**

企業のブランドガイドライン（通常は PDF または web リソース）の取得にはかなりの時間がかかります。このベンチマークでは、3 種類の実在のスタイルガイドから文字の仕様とカラー値を取得するのに要する時間、および対応するスタイルシートとカラースウォッチの作成にかかった時間を測定しました。**これらの設定をライブラリから取得するのには 1 分もかからなかったのに対し、PDF 形式のスタイルガイドを使用して同じ結果を得るには平均 6 分半**かかりました。

ライブラリによる時間短縮とチームの規模の関係

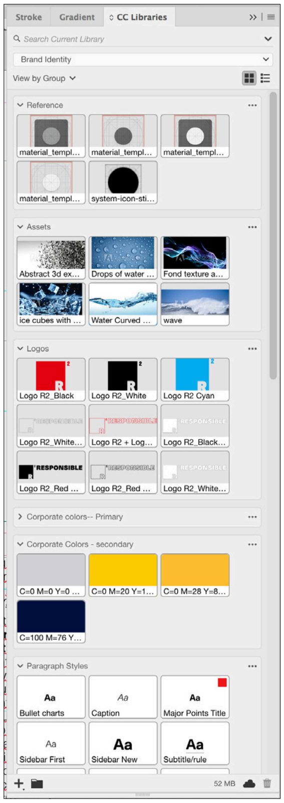
	アセットの共有にライブラリを使用することでサーバー使用時より短縮される時間			
	発生回数			
チームの人数	1	5	10	20
1	**1回の作業で短縮される時間：52秒**	4分19秒	8分39秒	17分18秒
5	4分19秒	21分37秒	43分15秒	1時間26分30秒
10	8分39秒	43分15秒	1時間26分30秒	2時間52分59秒
15	12分58秒	1時間4分52秒	2時間9分45秒	**4時間19分29秒**

アセットの共有にサーバーではなくライブラリを使用すると、**1回あたりの作業時間が52秒以上短縮されます**（5ページのグラフを参照）。チームの規模が大きくなり作業の回数が増えれば、**この単純な作業での時間短縮は数時間に及ぶことになります。**

UXデザインは通常XDなどのアプリケーションで作成しますが、制作チームの別のメンバーがPhotoshopやIllustratorで作成した要素もよく使用します。それらの要素すべての同期を保ち、あらゆるアイコンやデザイン要素に繰り返しが自動的に適用されるようにするのは、難しいだけでなく時間もかかります。

IllustratorやPhotoshopのファイルを読み込む代わりにライブラリを使用すると、この統合が大幅に効率化し、容易になります。必要な要素はすべてライブラリに保存して整理でき、XDで作成したUXデザイン全体で自動的に更新されるためです。

ライブラリを使用して社内スタイルガイドを作成



社内スタイルガイドの主要なアセット、設定、仕様をライブラリに集め、**すべてのユーザーが使用するアイテムを常に同期された状態に保てます。**

スタイルガイドやブランドマニュアルは、コーポレートフォント、商標に利用可能な各種ロゴデザイン、カラースウォッチ、企業画像など、**ブランドの一貫性を確保するのに必要な情報がすべて集約されている**ため、コーポレートアイデンティティの土台となります。

ブランドマニュアルはデザイナーにとって不可欠ですが、有効に活用するには、企業カラーのCMYKやwebセーフカラー値などの情報を調べて手作業で実装する必要があり、多大な時間を要します。また、これは時間がかかるだけでなく（前のページのグラフを参照）、ミスが生じやすい作業でもあります。

ライブラリを使用すると、カラースウォッチ、段落スタイル、文字スタイル、企業アセット、および承認済みのグラフィック要素にユーザーが直接アクセスできるようになり、それらの同期が保たれるため、このプロセスの手間が大幅に軽減されます。このようなスタイルガイドはライブラリを使って簡単に作成できます。適切な形式の要素を選択して、適切なライブラリに追加するだけで作成できます。

さらに、デザイン要素を種類別に自動的にグループ化することも、グループをカスタマイズすることもできます。**検索可能なコメントを各要素に追加して、正確な使用手順やブランドの一貫性を確保するための重要な情報を盛り込むことも可能です。**

調査方法

このベンチマーク評価は、アドビからの委託により、Pfeiffer Consultingが中立公正に実施しました。

このレポートに示す生産性の測定は、実際のワークフローの事例にもとづき、対象プログラムとワークフローについての長い経験を持つ熟練者が設計し、実行したものです。

生産性の測定方法

基本的な考え方は簡単です。あるプログラムまたはソリューションがもたらす（または、もたらさない）生産性の向上を評価するために、まず、比較の対象となる各アプリまたはワークフローにおいて、ある結果を実現するのに最低限必要な手順の数を分析します。

この操作手順を明確にしたら、現場で対象のソリューションに長年携わっている経験豊富な担当者の手を借り、各ソリューションの操作またはワークフローを実行します。

あらゆる操作手順を3回実行し、測定した3回の平均値を使用します。

Pfeiffer Consultingについて

Pfeiffer Consultingは独立系技術研究調査機関です。パブリッシング、デジタルコンテンツ制作、ニューメディアプロフェッショナルなどのニーズに特化したベンチマーク評価を実施しています。

詳しくは、下記にお問い合わせください。
research@pfeifferreport.com

Pfeiffer Report

All texts and illustrations © Pfeiffer Consulting 2019.
事前の書面による同意のない無断複製を禁じます。
詳しくは、research@pfeifferreport.com までお問い合わせください。

このレポートに掲載されているのは、情報提供のみを目的とした評価データおよび一般的シミュレーションのデータです。この情報は、既存の会社またはクリエイティブ作業の状況について、特定の生産性の調査や算定を提供するためのものでも、またそれに代わるものでもありません。Pfeiffer Consultingは、本レポートに掲載されている情報、助言、提言の使用についても、これに基づいておこなわれる行動についても、一切の責任を拒否するものであり、本レポートまたは関連文書で提供しているデータに基づく購入、装備、投資その他の判断および事業について責任を負うことはできません。

Adobe, the Adobe logo, Creative Cloud, Illustrator and Photoshop are either registered trademarks or trademarks of Adobe Systems Incorporated in the United States and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners.